

忍路小中コミュニティースクールだより 2号

忍路小中CS事務局

学校、地域で 育てます

- ◆自力で考え課題解決に努力する学びに向かう力を備えた子
- ◆自分も相手も思いやり、より良い学校をつくろうとする子
- ◆目標を持ち、運動や体力の向上に取り組むたくましい子

学校運営協議会委員の重要な仕事として『学校評価』があります。学校評価とは学校運営の改善を図ることを目的に実施し、学校運営協議会委員は学校自身の評価について妥当かどうかを第三者的に判断するもので、学校運営の改善をさらに進めるものです。

12月には後期学校評価を実施し、その結果について学校運営協議会員の皆さんにお示しました。令和5年度は図書館司書の取組などを通じて、読書活動を推進し、評価を改善することができました。また、令和5年度の学校の取組として、オープンキャンパスや1人1台端末の活用、不登校児童生徒の現状について説明しました。

【小学校学校評価】保護者からの回答を割合で示しています

| | | | | | |
|---|-------------------------------|---------|-----|---------|-----|
| 2 | ◆学校は、子どもたちの学力向上に努めていますか？ | 令和5年度後期 | 93% | 令和5年度前期 | 77% |
| 9 | ◆学校は、新しい時代に対応した教育活動をすすめていますか？ | 令和5年度後期 | 93% | 令和5年度前期 | 92% |

【 回答を受けた学校の取組を示します 】

学力向上に向けて、日々の授業を大切にするとともに、基礎的・基本的な学力の定着を目指したチャレンジタイム（朝学習）や個に応じた学習の充実とデジタルドリルの活用を図り、学力向上に向けた取組をすすめます。プログラミング学習の取組などクロムブック・ICTを活用した新しい時代に対応した情報教育や、ALTを活用した外国語、外国語活動等を通じコミュニケーション力を養う取組を進めます。

到達度についての学校の取組を評価していただきます。

【第2回協議会より】話題になった内容

- ①学校運営協議会委員として、学校との関わりはなかなか難しい。子どもたちが学校の中で普通の授業でどのようなようすなのか、全部がわかっている状況ではない。児童クラブなどで関わりのある子どものようなようすはわかる。
- ②学校に来る機会がないなかで、学校だよりや、学校長からの説明で学校の状況を把握しようと努めている。新小学校1年が入学しなかったり、なかなか学校に来ることができない子どもへのサポートなど、学校の課題や難しさがわかった。学力差をどうにかするには、別室で勉強を教える担当の方等がいると良いのでは。
- ③自分の子どもがいたときと、今のようすを比較して、学校の状況を把握するように努めている。小樽市内全体で子どもの数が減っていることは大変なことであると思う。

令和6年度に向けて

今年度の忍路小中学校運営協議会としての大きな活動は終了しますが、次年度は忍路小150周年事業が控えています。また、資源回収や他の行事などでも学校運営協議会の委員の皆さんや、地域の皆様のご協力をお願いすることになるかと思えます。次年度も本校の教育活動へのご支援をよろしく願います。

